

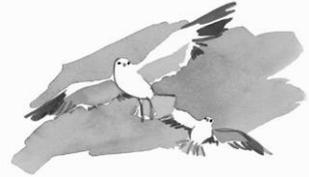


# 輝き

創立 30 周年

第6号

令和3年7月1日  
TEL 059-229-2831



## 創立 30 周年記念の航空写真撮影

6月22日(火)天候に恵まれ、創立30周年を記念し、航空写真の撮影を行いました。運動場に人文字で「南が丘中」の文字を描き、セスナ機が来るのを今か今かと待ちました。どんな文字が出来上がったのか楽しみです。

350人近い生徒を動かし、限られた時間で飛行機が来るタイミングに合わせて人文字が作れるのか心配しましたが、前日の準備を含め、撮影を依頼した業者さんの「段取り力」に感心させられました。「専門の業者さんなんだから当たり前」と言ってしまうかもしれませんが、広い運動場にどうやって文字を描くのか? 測量機器を使って? と思いきや、3名ほどのスタッフが長〜いメジャーと竹竿、数本の杭を使って、2〜30分で書き上げてしまいました。撮影当日もスタッフ1名が生徒を誘導し、余裕をもって撮影に臨むことができました。事前にいただいた、人文字の図面には学級ごとに立ち位置が割り振られており、当日朝の学活の数分の説明だけで、人文字が完成しました。もちろん、子どもたちの動き、協力があつてこそだと思います。

出来上がった写真は、クリアファイルに印刷し、記念品として後日配付させていただきます。クリアファイル作成にあたっては、PTA予算を充てていただきました。ありがとうございます。

なお、今回、人文字の他にも学校の全景や子どもたちの集合写真も撮影していただいております。購入することも可能となっています。保護者懇談会に合わせて、撮影した写真を校内に掲示させていただきますのでご覧ください。



## 6月23日 沖縄県慰霊の日 (写真はNHKニュースより)

戦争を知らない世代の私たちにとって、広島の実験の日、長崎の実験の日、終戦記念日は知っていても、沖縄県慰霊の日はあまり知られていないようです。沖縄タイムスとヤフーの共同アンケートでは、全国からの回答者2000人のうち、75.5%の人が慰霊の日を「知らなかった」と回答したそうです。6月23日は、先の大戦で、本土防衛の最後の拠点となった沖縄で、旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる日であり、今年で沖縄戦から76年目にあたります。この沖縄戦で亡くなった日本兵や一般住民の方々は、一般住民約10万人を含め約20数万人といわれています。沖縄県では、「我が県が、第二次世界大戦において多くの尊い生命、財産及び文化的遺産を失った冷厳な歴史的事実にかんがみ、これを厳粛に受けとめ、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるため」6月23日を「慰霊の日」と定めています。この日、沖縄県では各地で追悼式が行われ平和への祈りに包まれる一日となりました。ただ、コロナ禍の中、沖縄県では、7月11日まで緊急事態宣言が継続され、今年の慰霊の日は、規模が縮小されたものとなりました。この沖縄県慰霊の日にかかわり、6月23日の中日新聞に関連した記事がありましたので紹介します。



### 中日春秋

沖縄民謡の第一人者として活躍した嘉手苅林昌さんは、作詞した代表作『時代の流れ』で歌っている。「唐ぬ世から 大和ぬ世 大和ぬ世から アメリカぬ世 珍らさ変わる 此ぬ沖縄」。唐から日本、米国、また日本へと、権力が移り変わって、この沖縄も変わったと、大きな力に翻弄され、「戦世」にものみ込まれ、世の中も変わってしまった。嘆きに似た思いは、沖縄の多くの人にありそうだ。たしか学徒隊員の遺書だっと思う。「みるく世が来るまでお休を大切に」。家族に呼びかけたそんな内容の一文を読んだことがある。弥勒に由来するという「みるく世」は「平和で豊かな世」の意味だそう。だ、戦世が終わってみるく世は訪れたのか、基地が集中する島のアメリカ世はいつまで続くのだろうか。沖縄戦終結からの七十六年は、そんな自問とともにあったかもしれない。きょう慰霊の日。今年の沖縄全戦没者追悼式で朗読される詩に選ばれたのは宮古島市の中学二年、上原美春さんの「みるく世の謳」という。青空、吹く風、土、自然に、悲しい沖縄戦を重ねながら言っている。「みるく世を創るのはここに在るわたし達だ」。記憶を受け継いだ若い世代から、沖縄の問いへの一つの答えのようでもある。▼コロナ禍で昨年に続いて規模縮小となる式典というが、次の世への若者の決意、時代の流れとして響くといいたい。

# みるく世(ゆ)の謳(うた) 「みるく世」は、沖縄で「平和で豊かな世」を意味します



記事にあった、上原美春さん(13)の「平和の詩」の全文を紹介します。沖縄県内の小中高生ら計1,500作品から選ばれた作品です。

みるく世(ゆ)の謳(うた)	何度も拭ってきた涙	決意の声高らかに
12歳。	あなたは知っている	みるく世(ゆ)ぬなうらば世(ゆ)や直
初めて命の芽吹きを見た。	あれは現実だったこと	(なう)れ
生まれたばかりの姪(めい)は	煌(きら)びやかなサンゴ礁の底に	平和な世界は私たちがつくるのだ
小さな胸を上下させ	深く沈められつつある	共に立つあなたに
手足を一生懸命に動かし	悲しみが存在することを	感じて欲しい
瞳に湖を閉じ込めて	凜(りん)と立つガジュマルが言う	滾(たぎ)る血潮に流れる先人の想い
「おなかすいたよ」	忘れるな、本当にあったのだ	共に立つあなたと
「オムツを替えて」と	暗くしめった壕(ごう)の中が	歌いたい
力一杯、声の限りに訴える	憎しみで満たされた日が	蒼穹(そうきゅう)へ響く癒しの歌
大きな泣き声をそっと抱き寄せられる	本当にあったのだ	そよぐ島風にのせて
今日は、	漆黒(しっこく)の空	歌いたい
平和だと思う。	屍(しかばね)を避(よ)けて逃げた日が	平和な未来へ届く魂の歌
赤ちゃんの泣き声を	本当にあったのだ	私たちは忘れないこと
愛(いと)おしく思える今日は	血色の海	あの日の出来事を伝え続けること
穏やかであると思う。	いくつもの生きるべき命の	繰り返さないこと
その可愛らしい重みを胸に抱き、	大きな鼓動が	命の限り生きること
6月の蒼天を仰いだ時	岩を打つ波にかき消され	決意の歌を
一面の青を分断するセスナにのって私	万歳と投げ打たれた日が	歌いたい
の思いは	本当にあったのだと	いま摩文仁の丘に立ち
76年の時を超えていく	6月を彩る月桃が揺蕩(たゆた)う	あの真太陽(マティダ)まで届けと祈る
この空はきっと覚えている	忘れないで、犠牲になっていい命など	みるく世(ゆ)ぬなうらば世(ゆ)や直
母の子守唄が空襲警報に消された出来	あつて良かったはずがない事を	(なう)れ
事を	忘れないで、壊すのは、簡単だという	平和な世がやってくる
灯(とも)されたばかりの命が消されて	事を	この世はきっと良くなっていくと
いく瞬間を	もろく、危うく、だからこそ守るべき	繋がれ続けてきたバトン
吹き抜けるこの風は覚えている	この暮らしを	素晴らしい未来へと
うちな一ぐちを取り上げられた沖縄を	忘れないで	信じ手渡されたバトン
自らに混じった鉄の匂いを	誰もが平和を祈っていた事を	生きとし生けるすべての尊い命のバト
踏みしめるこの土は覚えている	どうか忘れないで	ン
まだ幼さの残る手に、銃を握らされた	生きることの喜び	今、私たちの中にある
少年がいた事を	あなたは生かされているのよと	暗黒の過去を溶かすことなく
おかえりを聞くことなく散った父の最	いま摩文仁の丘に立ち	あの過ちに再び身を投じることなく
後の叫びを	私は歌いたい	繋ぎ続けたい
私は知っている	澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ	みるく世(ゆ)を創るのはここにいるわ
礎(いしじ)を撫(な)でる皺(しわ)の手	今日生きている喜びを震える声帯に感	たし達だ
が	じて	

沖縄戦から76年がたった現在、コロナ禍で日常の当たり前を奪われた日々が続いています。戦争とは状況は違いますが、この詩には、今だからこそ「生きることの喜び」を忘れず、「尊い命のバトン」をつなぎ続け、「みるく世を創るのはわたし達だ」との決意が込められているように感じます。

生まれ育った沖縄の歴史を学び、あふれ出た言葉に、そこに生きる子どもたちの強い意志を感じました。皆さんは、同じ世代の声を、思いをどのように受け止めたのでしょうか。

一学期も残すところ、あとわずかです。皆さん自身の成長を振り返りながら、気を引き締めて勉強に部活動にと、一学期の締めくくりをしよう！

南が丘中学校HPへ→

